



八王子市子どもすこやか^{せんげんふきゅうけいはつじぎょう}宣言普及啓発事業

わたしたちのまちづくり

10年後もこのまちが 好きですか？

平成20年度はちおうじ子ども議会
報告書

八王子市

もくじ

はちおうじ子ども議会によせて-----	2
「八王子市子どもすこやか宣言」と「子どもの権利条約」-----	3
子ども議会へのステップとしての「子ども会議」-----	4
「子ども議会がはじまった」-----	7
「結団式」-----	8
「施設見学」-----	10
「合宿」-----	11
「本会議」-----	15
「提言」-----	18
「報告会と解散式」-----	19
「“振り返りの時間”から」(子ども議員・学生サポーター感想文)-----	20
はちおうじ子ども議会 資料	
1 子ども議員名簿-----	33
2 学生サポーター名簿-----	34
3 発言通告書(提案)-----	36
4 提言書-----	45
5 子ども議会のキーワード-----	50
子ども議会に協力していただいた方々-----	52



はちおうじ子ども会議によせて

はちおうじ子ども議会は、子どもが主役となって将来のまちづくりを考えるため、八王子市議会との共催によって実現しました。

この取組みは単に「子どもが意見をいう」というものではなく、子ども議員として学習会を重ね、時には地域の方々や市の職員から直接話を聞くことで、たくさんのことを学び、秘書役である学生サポーターをはじめ、ご協力いただいた皆さんの努力が大きく実を結んだ大変有意義なものです。

新聞でも取り上げられましたが、ある委員会から「子どもの目線で政策を考えてほしい」とのことから「子どものしあわせ課をつくろう」という提案を戴きました。私はその理由を伺って「もっともだ」と思い、すぐ「やります」とお返事しましたが、これには提案した子ども議員のほうに驚いたことでしょう。それから環境の問題について、地球規模から八王子のことまで、自分たちの将来を考えて幅広い角度から積極的に提案してくれました。大変うれしく、また頼もしく思いました。

その後、全員の感想文を読ませてもらう中で、改めて活動が非常に意義のあるものだったと感じました。「市政や国政にも興味が広がった、日本について考えるいい機会になった」「自分たちがこの7か月間で大きく成長したとを感じる」「市の人たちが八王子を平和でより良いまちになるよう、懸命に努力していることに気がついた」という感想をいただきました。実際、職員の意識も変わってきていて、これからは子どもの目線を大切にしようということを改めて感じています。これも子ども議会の大きな成果です。また学生サポーターの方からも「この経験は私が東京に出てきた意味になった」という感想をいただきました。お手伝いいただいた皆さんにも良い経験になったことと思います。

私たちは子ども議員の発言を重く受け止め、大事にしていきます。そして将来の担い手である皆さんが、あの時の発言で八王子のまちがこう変わったんだ、と実感できるようなまちづくりをしていくことが、これからの課題だと思います。

ぜひ、子ども議員の皆さんも自分の夢と希望をしっかりと持ち、その実現に向かってがんばってください。これからの主役は皆さんです。



八王子市長 黒須 隆一



「八王子市子どもすこやか宣言」と「子どもの権利条約」

「未来を担う子どもたちがみんな幸せに、そして責任ある大人になってもらいたい。」「自然がたくさんある八王子でいきいきと生活し、自分の可能性を伸ばして欲しい。」「まわりの人と信頼しあえる関係を大切にし、健康で個性豊かに成長して欲しい。」というのは、私たちの共通の願いです。

この願いを明文化し世界中の子どもが持っている権利を守る規範として、国連では「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」が平成元年(1989年)に採択され、日本も平成6年(1994年)にこれを批准しました。ここでいう権利とは「人権」のことであり、人間としての尊厳をもつ社会の一員として扱われるべきであるという意味です。

八王子市では「子どもの権利条約」の考え方を取り入れながら、平成13年2月に「八王子市子どもすこやか宣言」を行いました。

現在は、市内を5つの地域に分けて開催している「子ども会議」、「イベント、シンポジウムの開催」などをおして、「子どもの権利条約」の考え方を、広くみなさんに知っていただくための取り組みを行っています。子ども議会もその一つです。

八王子市子どもすこやか宣言



- 1 わたしたちは、人にはみんな違いがあり、みんなよいところをもっていることを認めお互いに相手を尊重します。
- 1 わたしたちは、がまんすることの大切さを理解するとともに、好きなことに夢をもち元気になります。
- 1 わたしたちは、しっかりと自分を表現し、自分の意見や行動に責任をもちます。
- 1 わたしたちは、子どもたち1人ひとりが大切にされ、安心して生活できる家庭を望みます。
- 1 わたしたちは、家庭や学校そして地域で学習する楽しさがわかり、自分の可能性を伸ばすことのできる環境を求めます。

平成13年2月4日 八王子市

子ども議会へのステップとしての「子ども会議」

「子ども会議」は『八王子市子どもすこやか宣言』の普及啓発事業として、「子どもの意見表明権」を具体化するために、子どもが「主体的に活動に参加できる機会を確保」することを目的として、平成13年9月に初めて開かれました。その時は、「普段自分がいろんなことに対して考えていることや思っていることを自由に発表してもらおう」というコンセプトで、小学生の部と中高生の部に分かれて話されました。

翌年から2年間は児童館職員がコーディネートして、市内を4つ（当時は5ブロックの考え方がありませんでした）に分け、「私たちぼくたちの考えるまちづくり」をテーマに、理想の学校を考えたり、新聞やマップを作りました。

16年度のテーマは「遊び」。昔遊びや集団遊びなどを体験しながら、子どもと大人で意見交換をしました。この年から子ども会議には地域の方々が加わり、「子どもと大人が同じテーマ、同じ目線で話をする」という形ができました。これより子どもの意見を大人が受け止める、大人の話が子どもが聞くという、あたりまえのようでとても難しかった第一歩が踏み出されました。

17年度からは子どもと大人との関わりをさらに進め、「子ども実行委員会」「大人実行委員会」による子ども会議の企画運営をしました。子どもは自分達の考えを実現するため、大人は子どもの企画を支えるためそれぞれ準備をして「里山遊び体験」「夢まちマップ」「街角アンケート」などに取り組みました。18年度は遊び場を通じて子どもたちが自分の居場所を考えること、市民協働の公園づくりに参加するなど、まちづくりの視点をさらにすすめる取り組みをしました。



17年度 街角アンケート隊

そして19年度になると「地域子ども新聞社」として、参加した子どもたちがそれぞれの地域について調べたり記事にする作業を行いました。出来上がった新聞は翌年、子ども議員が地域を知るための情報として活用されています。また、この活動に参加した子どもの中から子ども議員にステップアップした子どもが何人もいました。

地域の中で子どもの意見を聞き、大人と子どもが同じ視点で活動に取り組むということは、地道で大変手間のかかる作業ですが、こうした積み重ねが子どもたちの地域に対する興味を育み、地域で活動することを大人が認識するという土壌を生んだのではないかと考えます。

子ども会議の方針

- ① 子どもたちの意見表明は、大人が設定した機会の中で発表するものではなく、子どもたちが事業に参加し、「企画→実施→評価」まで関われる過程の中で行われることをめざす。
- ② 平成20年度は市の「こども育成計画」の後期計画策定に、子どもたちの意見が反映できるようにする。

19年度に行った2つのブロックの子ども会議を紹介します。



第1ブロック(八王子市の南西部地域)

なんせいぶ

いちようまつり地域子ども新聞社

わたしたちのまわりにこんな遊び場があったら最高!



インタビュー活動日

日時:平成 19年 11月 17日(土)

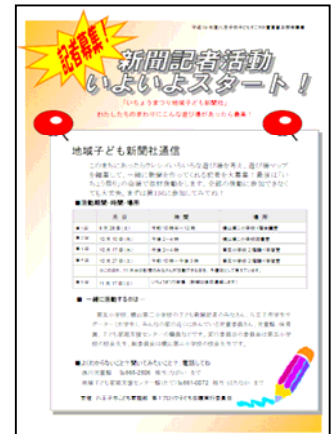
場所:いちようまつり会場

実行委員:子ども 11人 大人 24人

「第1ブロック子ども会議実行委員会」のメンバーは、第五小学校長、横山第二小学校長、第1・第7・第13・第15地区主任、児童委員のみなさん、地域子ども家庭支援センター館、浅川児童館、中郷児童館、多賀保育園、高尾保育園、長房中央保育園、長房南保育園、八王子市学生サポーターのみなさんです。また、子ども実行委員(新聞記者)には、第五小学校 9名・横山第二小学校 2名の子どもたちが参加してくれました。

まず、地域の小学校(第五小学校・横山第二小学校)の全員の子どもたちを対象に「遊び場に関するアンケート」を実施しました。このアンケートの集計結果をもとに、子ども実行委員が「理想の遊び場」に関する地域子ども新聞を作成しました。

この新聞を持って、子ども新聞記者が地域の市民のお祭りである「いちようまつり」の会場をまわり「初対面の来場者にインタビューする」という経験を積むことを目的としました。



平成19年度 第一ブロック子ども会議 アンケート集計報告

1. アンケート配布枚数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計
第五小学校	80	102	80	96	83	90	563
横山第二小学校	70	54	61	55	72	52	365
小計	150	156	141	151	155	142	897
	449				448		

2. アンケート回収枚数 (1)学校、学年別

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計
第五小学校	50	87	55	87	81	85	445
横山第二小学校	55	26	44	53	76	47	301
小計	105	113	99	140	157	132	741
	317				424		

(2)地域別、性別、学年別

地域別	1~3年生		4~6年生		合計
	男	女	男	女	
横田町	5	4	4	10	19
元本郷町	23	4	4	14	35
日五野	16	24	24	40	64
高尾町(文庫地区)	15	23	33	51	69
高尾町(高尾地区)	17	32	32	49	88
長尾町(その他)	24	71	71	95	140
八王子(1丁目)	16	25	25	29	75
八王子(2丁目)	26	26	26	52	78
八王子(3丁目)	39	45	45	84	129
八王子(4丁目)	18	20	20	28	66
東長尾町	19	25	25	44	69
その他	15	32	32	47	86
小計	304	434	434	738	1142

地域別(回収枚数)

地域別	回収率
横田町	10%
元本郷町	11%
日五野	15%
高尾町(文庫地区)	16%
高尾町(高尾地区)	17%
長尾町(その他)	18%
八王子(1丁目)	19%
八王子(2丁目)	20%
八王子(3丁目)	21%
八王子(4丁目)	22%
東長尾町	23%
その他	24%



第3ブロック(八王子市の中央部地域)

みなみ野・七国地域子ども新聞社「昔と今のまちづくり」



期間:平成 19 年 8 月 6 日(月)

~12 月 1 日(土)

場所:地域子ども家庭支援センターみなみ野 ほか

委員:子ども 25 人 大人 17 人

第3ブロック子ども会議実行委員会のメンバーは、みなみ野自然塾、宇津貫みどりの会、都立片倉高等学校生徒会、地域子ども家庭支援センターみなみ野、北野児童館、館が丘児童館、みなみ野保育園、千人保育園、静教保育園、学生サポーターのみなさんです。また、子ども実行委員として、みなみ野小学校・七国小学校・七国君田小のみなさん 20 名が活動してくださいました。

新しい“まち”である、みなみ野・七国地域では、地域で活動する“宇津貫みどりの会”や“みなみ野自然塾”のみなさんの協力を得て、まず実際に子どもたちがフィールドワーク(取材活動)を行うことを、活動の基本としました。子どもたちは、自分の興味のある内容ごとにグループに分かれて活動しました。グループ名は「今グループ」「昔グループ」「自然グループ」。



その後、「なぜ今のようなまちになったのか? どうしていきたいのか?」などについて新聞にまとめ、いろいろな場所で掲示発表しました。また、出来上がった新聞の内容を、子ども実行委員がパソコンに入力して作成するなど、配付できる新聞づくりにも取り組みました。